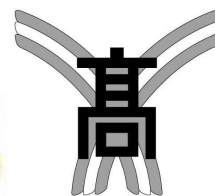


AL道中膝栗毛



【6月21日の研修会への参加、ありがとうございました】

ご多用の中、ありがとうございました。授業改善のヒントになることが一つでもあれば、委員会としてうれしく思います。

各班で作成したボードはデータ化しています。

「¥ Misuzu-sv ¥ d ¥ 分掌など ¥ 学力向上推進委員会 ¥ H31 ¥ 02 校内で実施する研修会など ¥ 0621」の中に「0621 まなボード」というPDFファイルがありますのでぜひご覧ください。

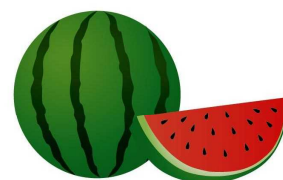


【それでもやはり協同学習を】

「基礎的な知識がなければ、実りのある話し合いはできない。まずは基礎的な知識を十分に身につけてから協同学習なり、アクティブラーニングを行うべきだ」こういったご意見は、本校が研究指定校となった5年前から繰り返し言われて続けていることです。

「知識を身につけてから、発展的な課題に取り組むべき。」この言葉には説得力がありますし、因果関係を考えても当然のことにように思えます。委員会としても異論はありません。しかし「だから協同学習・ALは取り入れるべきではない」という結論にはならないと思うのです。

知識や基礎的な力は、どうすれば身につくものでしょうか。多くの誠実な先生方は、これまで徹底した教材研究を行って、難しい作品の主題や様々な法則、歴史的事象などを分かりやすく「教える」ことで身につけさせようとしてきました。その結果、教材研究は相当に深化し、教師の授業力（教育技術）の向上によって年々「分かりやすい授業」が展開されるようになりました。この教育技術は、学校教育が築きあげてきた文化ですから、さらに研鑽を重ね、共有し、継承されなければなりません。



そのうえで、高い教育技術が授業の中で「より」生かされるために必要なことは何でしょうか。最も重要な要素は、教育技術の受け手、つまり生徒の姿勢にあるように思います。学ぶ意欲のない生徒（極端に言えば、寝ている生徒）にどんな素晴らしい授業を行っても、何も生み出さないでしょう。生徒の「学びに向かう力」や「主体的な学びの姿勢」は、授業の成果をきちんと生み出すうえで欠かせない要素です。

しかしながら、言葉での「ちゃんと参加しなさい」「真面目に受けなさい」という指示が、一部の生徒にとってあまり効果的ではないことは、先生方も実感しておられると思います。生徒に「授業への参加感」を持たせるという点においては、（それが形態に重きをおいたものとしても）協同学習という手法にまだまだ工夫の余地があるのではないのでしょうか。とりあえず参加が促される協同的な活動から始めて「授業への参加感」を持たせること。それが主体的な学びにつながり、主体的な学びで獲得した知識こそ身につく知識なのではないかと思うのですが、いかがでしょう。もちろんPCで保存するように、入力したデータ（知識）が全て確実に定着する方法があれば、これほど楽なことはないのですが。